目次

序　論　若武者の武勲　7
一　敵を討つ法　7
二　喉留を差すと云ふ事　10
三　本書がめざすもの　14

第一編　狩庭の物語　19
第一章　河津三郎最期の風景――奥野の狩庭と赤沢山　20
はじめに　20
一　奥野の狩庭へ　21
二　赤沢山の麓に　29
おわりに　42
第二章　三原野と那須野をめぐる狩庭の祭祀者たちの名誉　47
はじめに　47
一　三原野の狩庭と海野氏　50
二　那須野の狩庭と宇都宮氏　64
おわりに　75

第三章　宇都宮名誉譚を支える土壌
——奥州の賜領と伊沢氏の氏祖伝承をめぐって　107
はじめに　101
一　常陸国伊沢郡の所縁　84
二　陸奥国信夫荘の所縁　83
おわりに　83

第二編　道々の物語

第一章　角田川和歌譚の風景——業平伝説と長野氏の氏祖伝承をめぐって　111
はじめに　112
一　上野国の隅田川　112
二　在原業平の裔　113
おわりに　116
第二章　河原崎邂逅譚の風景——樋爪五郎伝説と在地の巫祝者たち　126
はじめに　128
一　河原崎の検証　128
二　樋爪五郎の伝説　129
三　母と娘の原像　133
おわりに　142

第三章　法皇宿逗留譚の風景――曽我物語を育む環境　149
はじめに　149
一　法皇宿への道　151
二　法皇宿の風景　154
おわりに　159

第三編　鎮魂の基層

第一章　転生の構想――七騎落ちの系譜から　165
はじめに　166
一　七騎落ちの祝言　166
二　七騎落ちの悲劇　167
おわりに　172

第二章　新田忠経大猪退治の構想――伏線の供犠として　176
はじめに　180
一　大猪退治の位相　180
二　大猪の背に立つ矢　181
三　十郎最期への帰結　186
おわりに　191

第三章　伊出の屋形に託された鎮魂の構想――血祭の聖地に　194
197

はじめに 197
一　屍処の記憶 198
二　血祭の聖地 207
三　死霊から御霊へ 215
おわりに 219
第四章　小林郷における曽我御霊の昇華——富士浅間の客人宮へ 224
はじめに 224
一　曽我御霊示現への道 225
二　客人宮示現の在地的基層 232
おわりに 239
付論　風景の文学——仁和寺をめぐる戊亥の聖域の系譜 243
はじめに 243
一　宇多法皇の妄念 245
二　戊亥の境界 252
おわりに 259
あとがき 263
初出一覧 266